

特集

佐世保で 農業を始めてみませんか



松尾さんが育てるイチゴ



花粉を運ぶミツバチの巣箱



イチゴの花とミツバチ



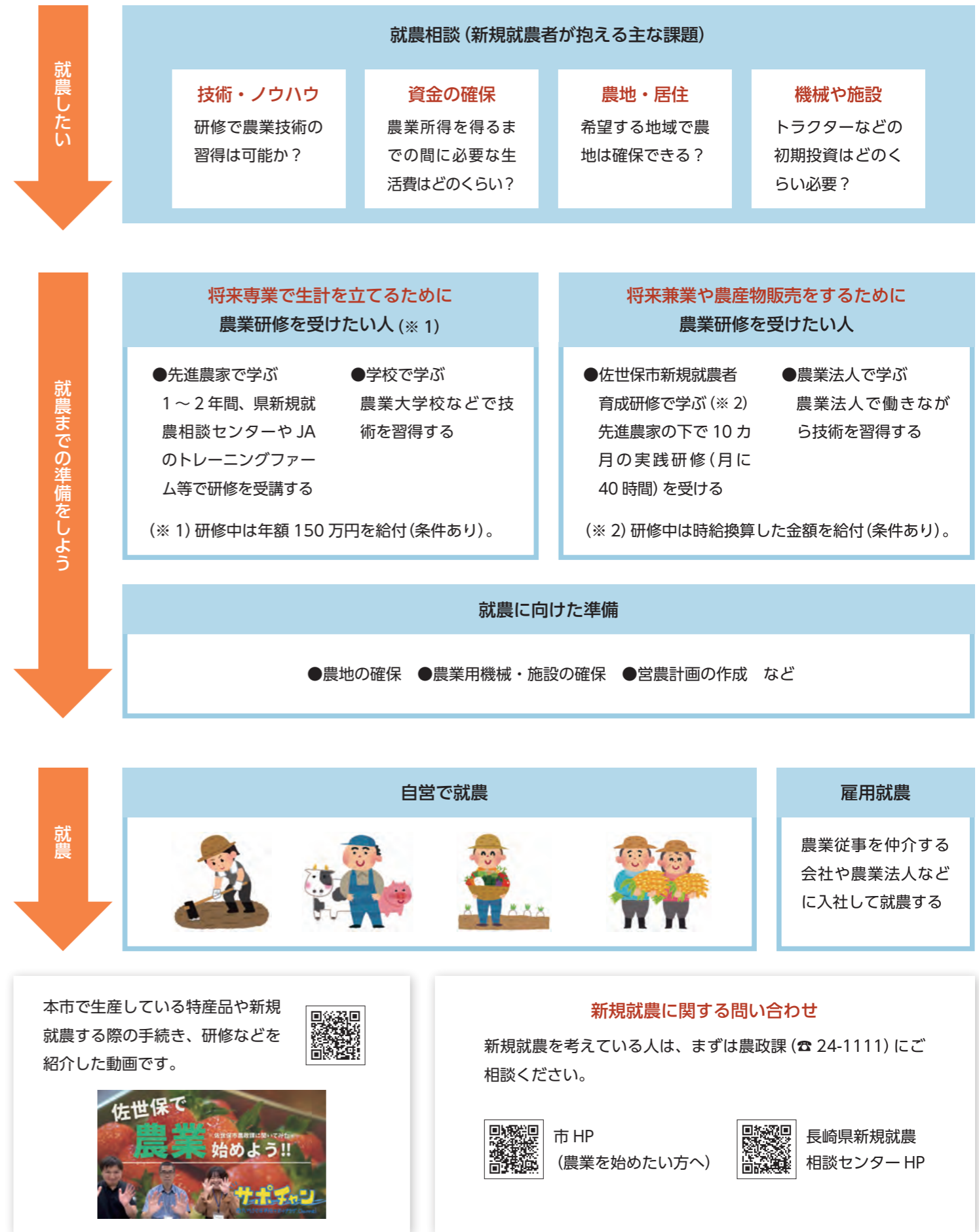
長ネギの出荷作業

「定年後は農業をしたい」や「自分で育てた野菜や果物を使ったレストランやカフェを開きたい」など、農業に興味を持ったことはありませんか。「就農」とは、農業を仕事にするという意味で、農林水産省によると、令和4年は全国で4万人を超える人が新規に就農しました。

長崎県や佐世保市では、農業に興味がある人や農業で生計を立てたいと思っている人からの就農相談を受けたり、就農に向けた研修や支援を行ったりしています。

今回の特集では、県や本市の制度を利用した就農までの流れを紹介するほか、制度を利用してイチゴ農家に転職した松尾正樹さんや、働きながら農業研修を受けている森みほ子さん、森さんの育成支援を行う農業士の内山田亜紀子さんに伺った話を紹介します。

新規就農の流れ



仕事を辞めて新規就農した方に話を聞きました



おいしいイチゴを 全国の人にお届けしたい

イチゴ農家(就農3年目)
松尾 正樹さん

転職のきっかけは就農相談

もともと生き物を育てることが好きで、農業を始めたいなら就農センター(長崎県新規就農相談センター)に行くといいと教えてもらったことが、農業への転職を考えるきっかけでした。祖父が米作りをしていたので、農作物を収穫する喜びを知る環境で育ちました。そのこともあって、農業を始めることへの抵抗などはありませんでした。

おいしいものを作ることに興味があり、購入してくれた人を笑顔にしたいと思ったことと、自分自身の生活を考えた時に、一定の収入が得られるものを育てようと思ったことから、イチゴ農家を目指しました。

思い切って会社を辞めて研修へ

就農センターでは1年間の研修を受け、最初の2カ月は肥料や病害虫、植物の栽培など農業の「基本の基」を学びました。この時、自宅と就農センターを往復する必要があったことから、思い切って仕事を辞めました。研修受講中は県からの給付金を受けることができたため、生活費を補うことができました。

師匠の存在がなによりも心強かった

就農後、1年目は農地の賃借や水利権の確保、必要な道具をそろえることなど、いろいろと大変でした。1年間の研修受講で本当にやっていけるのかという不安もありました。

作業の流れを考え、農作物を作り上げていく段取りを自分自身でどこまでできるのか、悩むことも多くありましたが、師匠であるイチゴ農家の松田真さん(農業士)が近くに来てくれたことが何より心強かったです。時には不安になることもありますが、私のことを気に掛けてくれる師匠の存在があるからこそ、今につながっています。

イチゴ生産のスタートとなる苗作りでは、荒れた土地を整えることから始めました。分からないことがあれば、その都度助言をいただきながら作業を進めていきました。ま

だまだ未熟ですが、伸びしろは無限だと思っているので、さまざまな人との関わりを持つ中で成長していきたいです。

お世話になった人に感謝の気持ちを伝えたい

仕事を手伝ってくれる妻、そして、お互いの両親、知人に感謝しています。また、県や市、JAなどの関係機関、師匠をはじめとする先輩農家、地域の皆さんが、私のことを受け入れてくれ、また優しく対応してくれるので、とても良い環境で仕事できています。初めてイチゴを収穫した時、お世話になった皆さんにイチゴを持っていきましたが、大変喜んでくれました。

一生懸命イチゴを育てていきたい

令和4年1月に就農を開始し、その年の6月頃から苗作りを始め、9月にはハウス内へ定植、11月末から収穫・出荷を行いました。今(取材時)は2回目の収穫・出荷を迎えています。振り返ると、イチゴ農家として道を歩み始めて、2年がたちました。

これからもおいしいイチゴをたくさん作って、全国の人にイチゴを届けていきたいと思っています。収穫量アップを目標にしていますので、今後は徐々に苗の数を増やし、日々、努力を怠らないよう一生懸命イチゴを育てていきたいと思っています。

(取材日 1月17日)

取材時の様子



紙面に載せられなかった話や、ハウス内の様子を動画で紹介します。



仕事をしながら農業研修を受けている方と農業士に話を聞きました

研修生(介護施設勤務)

森 みほ子さん

農業士

内山田 亜紀子さん



森さん(左)と内山田さん(右)

介護の仕事をしていて、食事が心身の健康を維持していく効用があることを日々実感しています。以前から、利用されていない田んぼで何か作物を作れないか、仕事が休みの日に何かできることはないかと思って過ごしていました。

インターネットで農業をする人の動画が目にとまり、農業に関するさまざまな情報を調べました。そこで、働きながら農業研修が受けられる事業が佐世保市にあることを知り、行動を起こさないといけないと思い、市ホームページで問い合わせました。

すぐに市の農政課から連絡が来て、就農相談の日程を組んでもらいました。相談してみて、自分に農業をしたいという思いが確実にあることに気がきました。

研修受け入れ先として、露地野菜農家の内山田さんを紹介していただきました。仕事が不規則なシフト勤務のため、1日8時間の研修は、仕事の休みの日に合わせて設定していただいています。内山田さんは生育管理における葉掛けや、収穫物の配送にかかるトラックの運転などパワフルに働いておられ、同世代の女性として大変に刺激を受けています。まだ研修を受け始めたばかりですが、少しでも多くの知識や技術を身に付け、経営者としての感覚も学んでいけるよう努めています。

現在の仕事をリタイアした後は、農産物販売で所得を上げられる営農者になりたいです。

夫にも農業と一緒にやろうと話をしているので、地域農業を支える家族経営をやっけていき、充実した人生を送りたいですね。

(取材日 1月17日)

特集に関する問い合わせ 農政課 ☎ 24-1111

ミカン農家の長女に生まれた私は、高校卒業後、果樹試験場で2年間の研修を受けて実家に戻りました。現在は果樹から露地野菜に移行して営農しており、ブロッコリーや長ネギ、サツマイモなど多くの品目をスーパーや直売所などへ出荷しています。

農業を経営する中で、度重なる自然災害によって農産物が出荷できなくなったり、施設が損壊したりするなど、体力だけでなく精神的なダメージを受けたこともあります。農業には、資金繰りに苦慮しながらも前に進むしかないという厳しい一面もあります。それらの苦難を乗り越えられたのは、今でも現役でトラクターを運転する86歳の父や地域の農家の皆さんと励まし合ってきたからです。販売を通じて、お客さんと直接触れ合う中で「おいしい」と言ってもらえることも励みになりました。購入した人から何度も注文が入ったり、手紙で喜びのお便りをいただいたりした時は、農業生産者で良かったと思う瞬間です。

平成14年に農業士となり、自身の経営と並行して新規就農者を育成する役割を担っています。農業高校や農業大学校の実習生を2~3週間預かり、実践農業を体験してもらうなどの活動をしています。

今回は、一から農業を始めたいという森さんを受け入れることになりました。市の農政課から「農業専業で生計を立てていく人ではない」と聞いた時に「指導する必要があるのかな?」と疑問に感じましたが、佐世保市の新規就農者を育成・支援する事業との説明を受け、多様な人材が就農できる良い制度であることを知りました。森さんのように就農に興味を持ってくれる人が増えれば良いと思います。

(取材日 1月17日)

